



「和解の務め」音信

Ministry of Reconciliation in South Africa

三位一体の神の御名を褒めたたえます。去年の春は日照りがすごかつたのですが、今年は非常に多くの雨が降ります。お祈りとご支援に心より感謝しております。



(開設1周年記念礼拝)

昨年9月25日、私たちは南アフリカに到着しました。それから1年。あつという間でしたが、「和解の宣教集会」を始めることができました。この集会は初めてステレンボッシュ改革派教会の国際部として出発しました。一年の間に三つの地域（シモンディウム、ドラケンシュタイン、プロツテンブルク）で「小さい群」を設置し、普段の主日にはそれぞれの地域で礼拝と交わりをもつようになりました。また、定期的に全体の連合集会を持つこともしました。「小さい群」とは、主イエス・キリストが弟子たちに「小さい群よ、恐れるな」（ルカ12：32）と言われたことに名付けたものです。そして今年の9月23日に開設1周年記念

力に到着しました。それから1年。あつという間でしたが、「和解の宣教集会」を始めることができました。この集会は初めてステレンボッシュ改革派教会の国際部として出発しました。一年の間に三つの地域（シモンディウム、ドラケンシュタイン、プロツテンブルク）で「小さい群」を設置し、普段の主日にはそれぞれの地域で礼拝と交わりをもつようになりました。また、定期的に全体の連合集会を持つこともしました。「小さい群」とは、主イエス・キリストが弟子たちに「小さい群よ、恐れるな」（ルカ12：32）と言われたことに名付けたものです。そして今年の9月23日に開設1周年記念

1. 「和解の宣教集会」
開設1周年記念礼拝

2. ドラケンシュタイン村での仮設集会所「ニューホープチャペル」の開設

3. 妻の一時帰国

10月24日、妻が一時帰国することになりました。その理由として一番大きいものはやはり妻の健康に関わることです。前回日本で頂いた薬が10月末に尽きてしまい、新たに薬を処方して頂く必要があります。以前こちらの薬を使用しましたが、副作用が酷く、大変な目に遭いました。こちらの薬を信頼できなくなってしまいました。もう一つは、娘が二番目の子どもを12月に出産する予定で、妻の協力を要請してきたからです。妻の精神的な安定のためにもここでの一時帰国が益になると考えました。3ヶ月の滞在予定で帰国します。皆様のお祈りを宜しくお願ひ致します。



(ポチエフストロム・ニュービギン・センター)

4. ポチエフストロムからの呼びかけ



(Drakenstein の仮設集会所)

以前、住んでいたポチエフストロムに所用のため往来していく中、「ポチエフストロム・ニュービギン・センター」の存在を知りました。小生も知り合いの女性宣教師が出所者やエイズ感染者などの新しい出発を助けるという趣旨で建てた場所でした。しかし、高齢と健康悪化の故にその宣教師は帰国し、センターは趣旨通りの運営ができなくなってしまいました。一万坪以上の広い敷地に幾つかの建物が建っていますが、まだ広い場所が残っています。そこで、小生たちと交わりを持つて現在の運営委員たちから、そのセンターを何とか一緒に活かしてみないかという呼びかけを受けました。小生も丁度、「国民高等学校」のビジョンが心の中に与えられていったところでしたので、その呼びかけが主からの呼びかけのように感じました。センターの初めの趣旨と小生の「国民高等学校」のビジョンは、結局、人々の新しい出発を助け、生活と労働を通して聖書的な生き方を伝えようということですから、一致する部分が多くあると思われました。今の段階では、定期的にポチエフストロムへ往来しながら、そのセンターの状況を調べ、センターのより良い活用について考察してみたいと思います。

① 「和解の宣教集会」の更なる発展のために。
② 各地域での小さい群（Little Flock）が健全に形成され、リーダーも立てられるように。
③ 国民高等学校が良く準備され、来年適切な場所で開催できるように。

④ ポチエフストロム・ニュービギンセンターが設立趣旨通り、主に新しい出発のために用いられるように。
⑤ 財政の面で必要が満たされ、宣教の働きがスムーズに進められるように。
⑥ 妻の移動と日本での滞在が守らなくて行くように。

皆様の尊いご支援を心より感謝致します。続けて南アフリカでの和解の務めが進められ、その必要が満たされるようにお祈りとご支援を宜しくお願ひ致します。以下は祈りの課題です。

5. 祈りの課題